

# 教育

edu@asahi.com

日曜～火曜掲載

## 教育ローン組み、送り出してくれた

### いま No.1648 子どもたちは

#### 飛び立って輝く ②

ニュージーランドのことは、あまり知らなかった。自然が豊かで、治安も良さそうという程度。「実際に行ったら、自然が多すぎて本当に田舎って感じ

でもすごく楽しいです。日本よりずっと自由で、みんながやりたいことができる」静岡県出身のヒカリさん(16)は、ウェリントン郊外にある公立高校カビティ・カレッジに通っている。ニュージーランドはちよつとこれから学年が変わり、高2になる。

公立中学の2年生の時に部活の友達との関係が悪くなり、休みがちに。3年生の夏休み明けから登校できなくなった。友達1ムステイ代は200万円を越

からLINEでメッセージが届いたが、「学校に行っていないのに返信するのはいけない気がして」返信できなかった。「暗い顔をして家の中にひきこもっていた」と母(47)は振り返る。進学先は層間定時制高校を勧められ、説明会に行ったが、入る時、高校になじめずカナダに行った知人の話を聞き、留学したくなった。年間の授業料とホ



知人の牧場で生まれた子羊をヒカリさんが昨年8月、ニュージーランド、本人提供

める。続くかわからない。公務員の父は最初反対したが、母は「たとえ1カ月でも自信になれば」と、教育ローンを組んだ。カビティ・カレッジでは日本のように学級単位で同じ授業を

受けるわけではなく、好きな授業が選択できる。英語も習熟度に合わせて教えてくれる。ヒカリさんが好きな授業は日本語だ。校内には各国からの留学生がいる。「教えてあげるばかり

じゃなくて、教えてもらうこともあって。そこが一番好き」留学生向けの英語の授業も気に入っている。日本で教えた経験のある先生が、時々、日本語も交えて笑わせてくれる。「日本の学校と違うのは、授業中に携帯電話を触っていても、猫をなでても、床に座っていても、やることをやっていれば何も言われないところ。いじめとかも聞かない」

母は言う。「あの子が明るさを取り戻せた。どこまでできるかわからないけれど、できる限り支援してやりたい」(宮坂麻子)